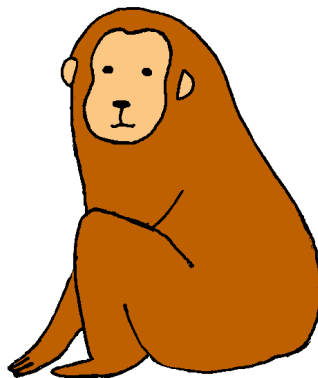


令和5(2023)年度
栃木県ニホンザル管理計画
モニタリング結果報告書



【令和6(2024)年12月17日】

栃木県

目 次

1 調査の目的と実施体制	1
2 捕獲数と捕獲の分布	2
3 捕獲個体の性別と年齢クラス	6
4 捕獲場所の環境と捕獲方法	7
5 群れの行動追跡	12
6 農作物被害の発生状況	13
7 農業集落アンケート	14
8 被害対策実施状況	15
9 総合評価	17

1 調査の目的と実施体制

1 調査の目的

栃木県は、ニホンザル（以下「サル」という。）地域個体群の安定的な維持と農作物及び生活環境被害の軽減を図るため、平成 15（2003）年 3 月に「栃木県ニホンザル保護管理計画」を策定した。令和 5（2023）年度からは「栃木県ニホンザル管理計画（五期計画）」に基づきサルの管理を実施している。

この計画では、実施した諸対策の効果を評価し、次期対策に反映させることで、より効果的な対策を進めるため、関係機関の協力を得て実施体制を整備し、モニタリングを行うこととしている。

本報告では、令和 5（2023）年度に実施した対策についての評価を行うことを目的とする。

2 調査の項目と実施体制

調査項目	実施体制
・ 捕獲数と捕獲の分析 ・ 捕獲場所の環境と捕獲方法	栃木県林業センター (ただし、捕獲票の記入は市町)
・ 農業集落アンケート調査	環境森林部自然環境課
・ 農作物被害の発生状況	農政部経営技術課

2 捕獲数と捕獲の分布

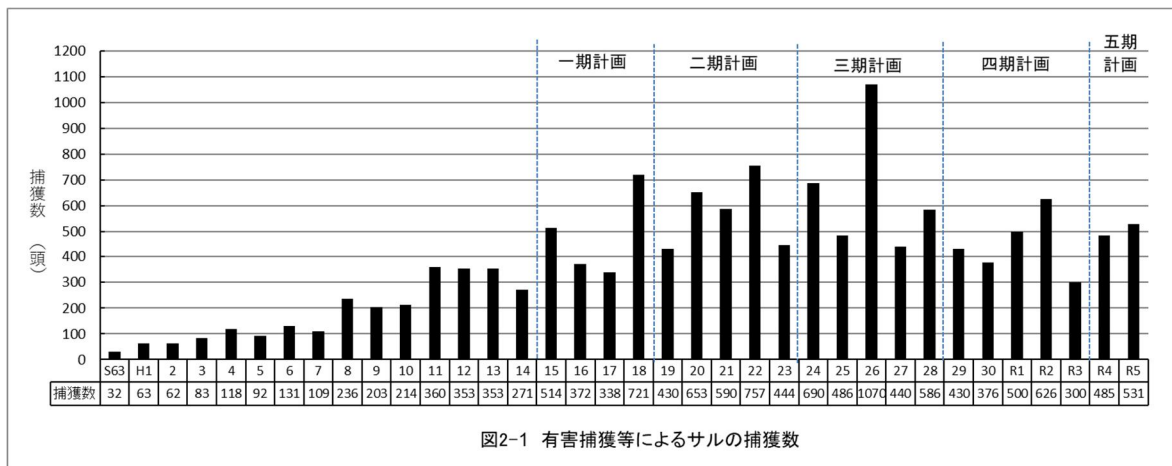
1 調査方法

各市町より提出された捕獲票から分析した。平成 14(2002)年度以前の捕獲数に関しては、鳥獣関係統計を用いた。

2 結果

(1) 捕獲数

- ・ 令和 5 (2023) 年度の捕獲数は 531 頭で、前年度の約 1.1 倍に増加した (図 2-1)。
- ・ 長期的にみると、捕獲数は平成 26(2014)年度(1,070 頭)までは増加傾向にあったが、その後減少し、四期計画の期間中は 300 頭から 600 頭強の水準に収まっている。



(2) 捕獲の分布

- ・ 令和 5 (2023) 年度は県北地域から県西地域にかけて多く捕獲されていた (図 2)。
- ・ これまでの捕獲分布の変遷をみると、県の北部から北西部に分布していた捕獲数の多い区画が少なくなる一方、県の南西部において捕獲数の多い区画が増加した (図 2-3)。
- ・ 捕獲分布の拡大は鹿沼市および佐野市周辺で目立った (図 2-3)。
- ・ 平成 30(2018)年度から令和 2 (2020) 年度までの 3 年間は排除地区の捕獲割合が中間地区を上回っていたが、令和 3 (2021) 及び 4 (2022) 年度は中間地区を下回り、令和 5 (2023) 年は同数だった。(表 2-1)。また前年同様、排除地区を越えた地域 (その他) での捕獲は無かった。

【保全地区】

標高 800m 以上の生息域は、ほとんどが落葉広葉樹林で、農耕地や集落が比較的小さいことから、サルの群れが人に依存しないサル本来の生息が可能な地域であり、人に依存しない健全な群れの維持と生息地の保全を目指す。

【中間地区】

落葉広葉樹林と農耕地、集落が複雑に入り組んでおり、群れごとに自然や人への依存度が大きく異なるため、利用する環境を含めた群れの特性に応じた管理を目指す。

【排除地区】

生息域内に存在する森林のほとんどが人工針葉樹林であるほか、農耕地や集落の割合が比較的高いため、サル本来の生息には適さない。このため、人に依存しないで生息できる可能性が低いことから、サルの群れの排除を目指す。

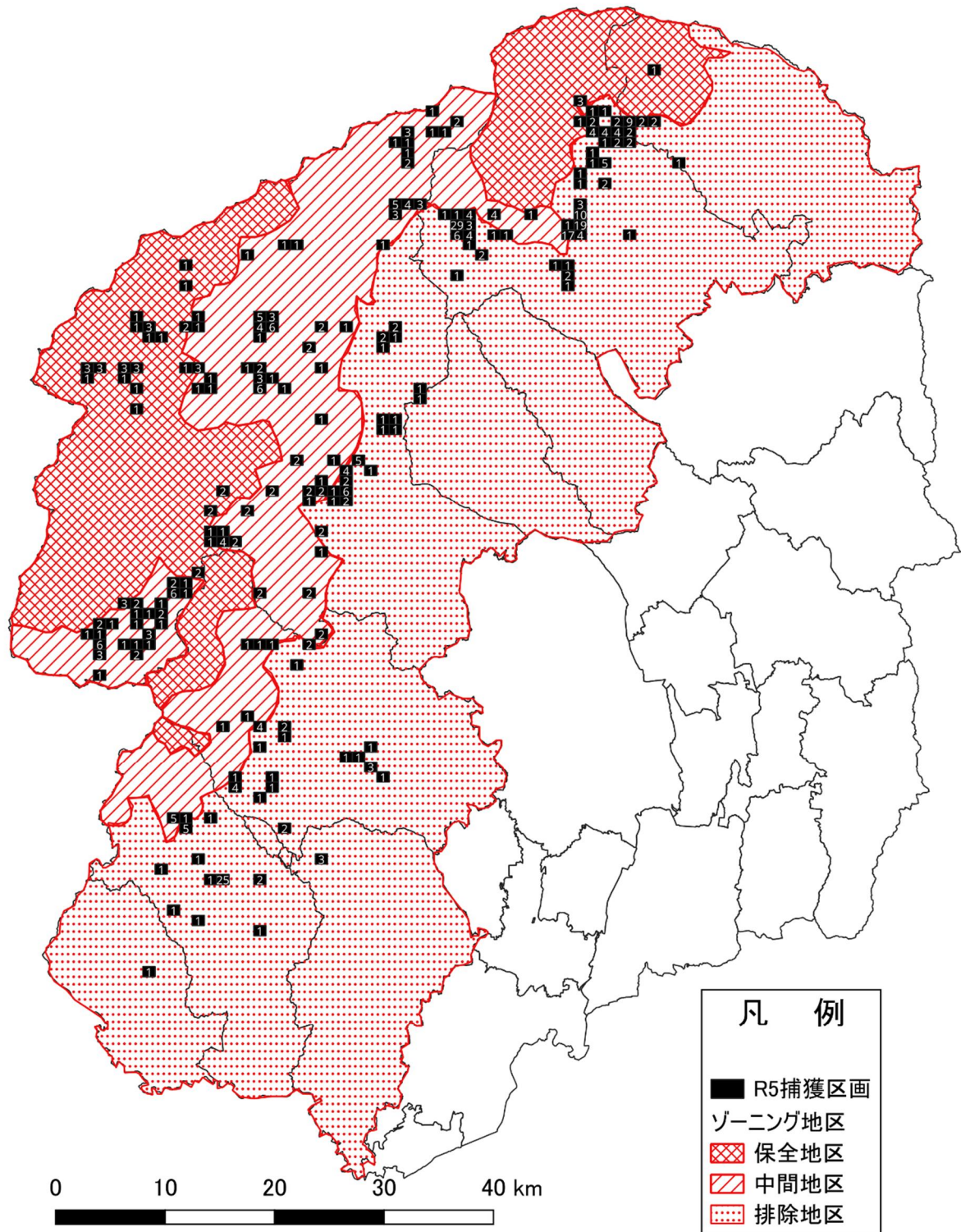


図2-2 有害捕獲等による捕獲の分布(令和5年度)

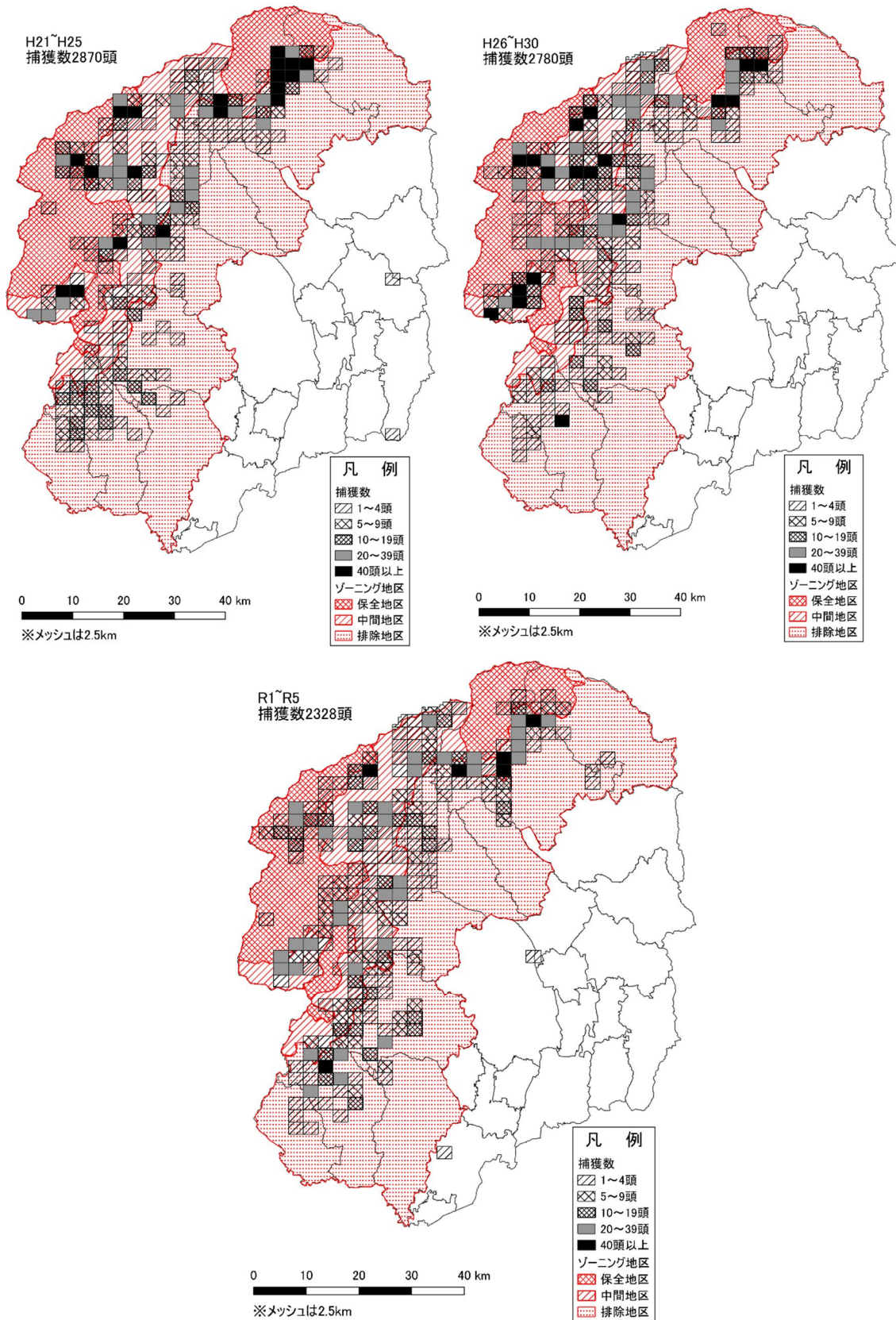


図2-3 有害捕獲等による捕獲分布の変化(5年ごと)

表2-1 地区区分別捕獲数

頭(%)

年 度	保全地区	中間地区	排除地区	その他	不 明	計
H19(2007)	18 (4)	191 (44)	219 (51)	0 (0)	2 (0)	430 (100)
H20(2008)	48 (7)	207 (32)	398 (61)	0 (0)	0 (0)	653 (100)
H21(2009)	84 (14)	138 (23)	362 (61)	0 (0)	6 (1)	590 (100)
H22(2010)	87 (11)	226 (30)	421 (56)	0 (0)	23 (3)	757 (100)
H23(2011)	40 (9)	188 (42)	215 (48)	1 (0)	0 (0)	444 (100)
H24(2012)	70 (10)	295 (43)	288 (42)	0 (0)	37 (5)	690 (100)
H25(2013)	74 (15)	145 (30)	251 (52)	1 (0)	15 (3)	486 (100)
H26(2014)	158 (15)	488 (46)	339 (32)	1 (0)	84 (8)	1,070 (100)
H27(2015)	80 (18)	171 (39)	186 (42)	2 (0)	1 (0)	440 (100)
H28(2016)	80 (14)	299 (51)	176 (30)	2 (0)	29 (5)	586 (100)
H29(2017)	63 (15)	201 (47)	95 (22)	4 (1)	67 (16)	430 (100)
H30(2018)	44 (12)	130 (35)	153 (41)	14 (4)	35 (9)	376 (100)
R1(2019)	63 (13)	189 (38)	228 (46)	9 (2)	11 (2)	500 (100)
R2(2020)	78 (12)	225 (36)	254 (41)	26 (4)	43 (7)	626 (100)
R3(2021)	48 (16)	134 (45)	107 (36)	4 (1)	7 (2)	300 (100)
R4(2022)	83 (17)	200 (41)	195 (40)	0 (0)	7 (1)	485 (100)
R5(2023)	79 (15)	200 (38)	201 (38)	0 (0)	51 (10)	531 (100)
計	1,197 (13)	3,627 (39)	4,088 (44)	64 (1)	418 (4)	9,394 (100)

※捕獲票に地区区分の記入がなかったものも捕獲位置から区分するとともに、区分を誤って記載していたものも修正した。

※割合については、端数の関係で合計が100にならないことがある

表2-2 市町別捕獲数

(頭)

市町名	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	増減 (R5-R4)
足利市	5	7	5	5	3	5	0	1	4	11	0	3	4	1	0	5	1	▲4
栃木市	10	0	7	4	0	9	0	1	1	0	2	0	1	1	1	3	3	0
佐野市	25	50	88	81	3	3	3	18	12	9	8	49	114	62	5	41	45	4
鹿沼市	25	25	17	19	22	14	24	30	22	21	42	35	56	95	34	38	31	▲7
日光市	252	337	309	350	234	403	258	712	269	420	290	222	244	300	173	268	263	▲5
那須塩原市	105	203	155	252	144	222	183	259	92	98	78	58	66	120	72	122	171	49
那須烏山市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
茂木町	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
塩谷町	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
那須町	7	31	9	46	37	34	17	48	40	27	10	9	15	47	15	8	17	9
計	430	653	590	757	444	690	486	1070	440	586	430	376	500	626	300	485	531	185

- ・ 令和5(2023)年度の市町別の捕獲数は、例年同様日光市が最も多かった(表2-2)。
- ・ 足利市、鹿沼市及び日光市は前年度に比べ捕獲数が減少し、佐野市、那須塩原市及び那須町は増加した。特に那須塩原市は約1.4倍の増加となった。

3 捕獲個体の性別と齢クラス

1 調査方法

各市町より提出された捕獲票から分析した。

2 結果

(1) 性別

- ・ 例年、メスに比べオスが多く捕獲されていたが、令和元年度以降は年度により異なっている。令和5(2023)年度は、オスとメスほぼ同数の捕獲となった。(図3-1)。
- ・ メスの捕獲は平成25(2013)年度までは3割程度で推移していたが、近年は高くなる傾向があり、令和5(2023)年度は約5割となった。

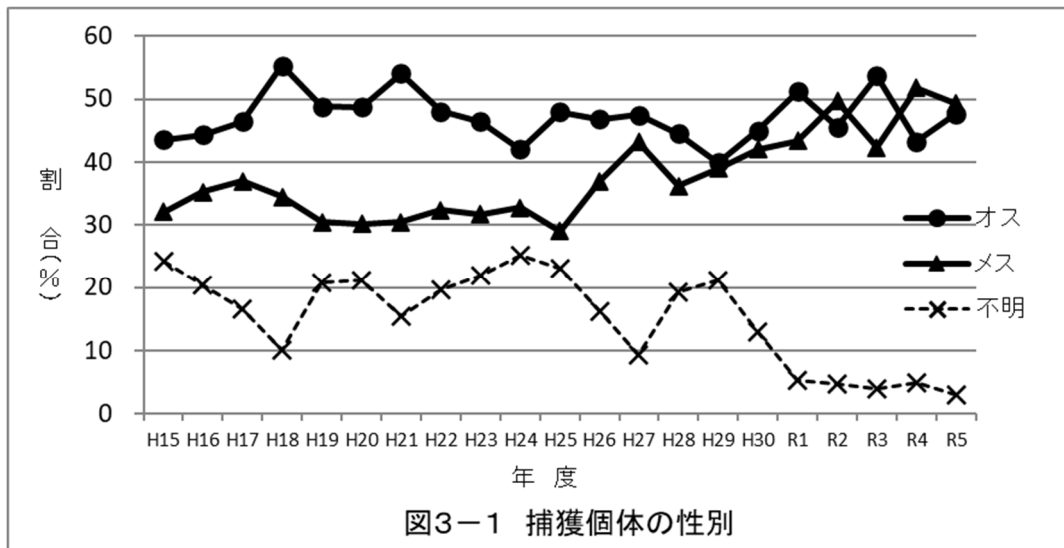


図3-1 捕獲個体の性別

(2) 齢クラス

- ・ オス、メスとも平成30(2018)年度以降オトナが約9割を占めていたが、令和5(2023)年度はオスが前年度と同様に約8割であり、メスは約9割であった(図3-2、3-3)。
- ・ オス、メスともに平成25(2013)年度以降コドモが1割前後にとどまっており、アカンボウの捕獲はほとんどなかった(図3-2、3-3)。

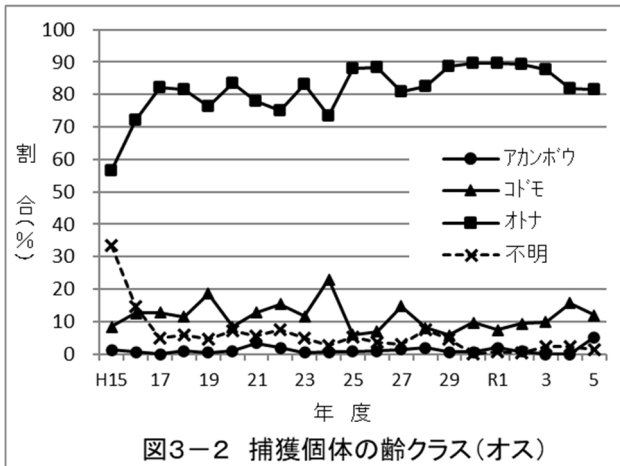


図3-2 捕獲個体の齢クラス(オス)

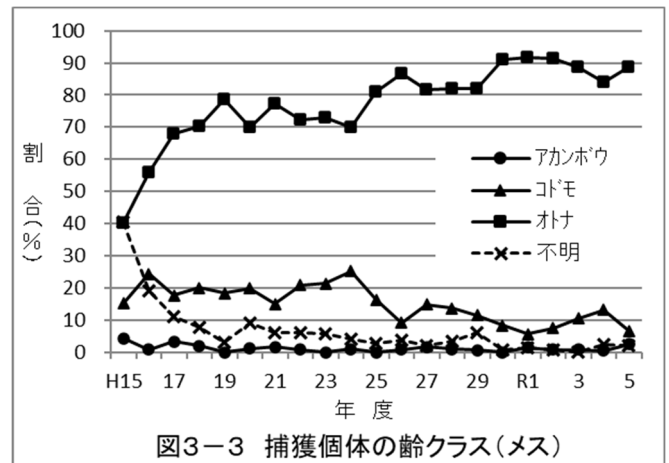


図3-3 捕獲個体の齢クラス(メス)

4 捕獲場所の環境と捕獲方法

1 調査方法

各市町より提出された捕獲票から分析した。

2 結果

(1) 捕獲場所の環境

- 令和5(2023)年度の「山林」での捕獲割合は、過去10年間で最も低い45%となった(表4-1)。
- 保全地区および中間地区では「山林」で最も多く捕獲され、特に保全地区では約8割を占めた。また、排除地区では「農地」が最も多い捕獲数となった(表4-1)。
- どの地区においても「山林」および「農地」2か所の合計が捕獲数の7~8割を占めた。
- 市街地周辺(農地・住宅地)における捕獲の割合は、保全地区および中間地区については前年度に比べ低下したが、排除地区については前年度に比べて10%以上上昇した。また、例年、排除地区が他地区に比べて高い傾向がある(図4-1)。

表4-1 捕獲場所の環境(令和5(2023)年度)

頭(%)

保 全 地 区							
市町名	山林	原野	農地	住宅地	その他	不明	計
足利市	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
栃木市	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
佐野市	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
鹿沼市	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
日光市	51 (91)	✓	5 (9)	✓	✓	✓	56
那須塩原市	10 (91)	1 (9)	✓	✓	✓	✓	11
那須町	1 (8)	✓	✓	✓	11 (92)	✓	12
計	62 (78)	1 (1)	5 (6)		11 (14)		79

中 間 地 区							
市町名	山林	原野	農地	住宅地	その他	不明	計
足利市	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
栃木市	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
佐野市	✓	✓	11 (100)	✓	✓	✓	11
鹿沼市	6 (60)	1 (10)	2 (20)	1 (10)	✓	✓	10
日光市	96 (64)	25 (17)	17 (11)	5 (3)	4 (3)	2 (1)	149
那須塩原市	9 (30)	1 (3)	5 (17)	1 (3)	14 (47)	✓	30
那須町	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
計	111 (56)	27 (14)	35 (18)	7 (4)	18 (9)	2 (1)	200

排 除 地 区							
市町名	山林	原野	農地	住宅地	その他	不明	計
足利市	1 (100)						1
栃木市			3 (100)				3
佐野市	2 (6)		31 (91)	1 (3)			34
鹿沼市	10 (48)	9 (43)	2 (10)				21
日光市	14 (67)	2 (10)	4 (19)			1 (5)	21
那須塩原市	35 (30)	1 (1)	58 (50)	2 (2)	19 (16)	1 (1)	116
那須町		2 (40)		3 (60)			5
計	62 (31)	14 (7)	98 (49)	6 (3)	19 (9)	2 (1)	201

参考

	山林	原野	農地	住宅地	その他	不明	計
H19年度計	187 (44)	68 (16)	137 (32)	20 (5)	2 (0)	14 (3)	428
20年度計	294 (45)	87 (13)	221 (34)	30 (5)	3 (0)	20 (3)	655
21年度計	343 (58)	86 (15)	121 (21)	16 (3)	4 (1)	20 (3)	590
22年度計	347 (47)	124 (17)	205 (28)	28 (4)	3 (0)	30 (4)	737
23年度計	176 (40)	73 (16)	166 (37)	18 (4)	1 (0)	10 (2)	444
24年度計	227 (33)	153 (22)	206 (30)	50 (7)	11 (2)	43 (6)	690
25年度計	253 (52)	47 (10)	112 (23)	36 (7)	3 (1)	35 (7)	486
26年度計	496 (46)	164 (15)	261 (24)	55 (5)	8 (1)	86 (8)	1070
27年度計	267 (61)	45 (10)	93 (21)	28 (6)	3 (1)	4 (1)	440
28年度計	292 (50)	76 (13)	140 (24)	28 (5)	3 (1)	47 (8)	586
29年度計	207 (48)	39 (9)	86 (20)	18 (4)	10 (2)	70 (16)	430
30年度計	191 (51)	70 (19)	59 (16)	11 (3)	7 (2)	38 (10)	376
R1年度	253 (51)	110 (22)	99 (20)	21 (4)	5 (1)	12 (2)	500
R2年度	277 (44)	105 (17)	174 (28)	27 (4)	5 (1)	38 (6)	626
R3年度	178 (59)	41 (14)	50 (17)	21 (7)	8 (3)	2 (1)	300
R4年度	281 (58)	34 (7)	105 (22)	25 (5)	20 (4)	20 (4)	485
R5年度	239 (45)	46 (9)	139 (26)	13 (2)	48 (9)	46 (9)	531

* 割合については、端数の関係で合計が100にならないことがある

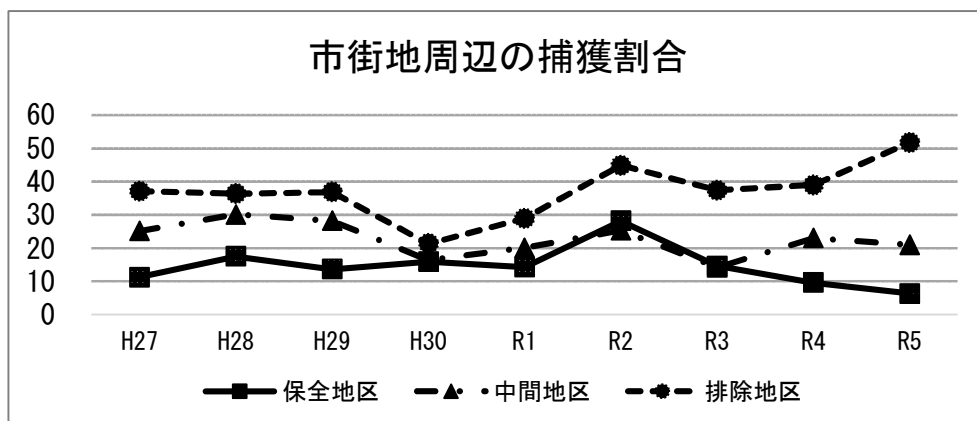


図4-1 市街地周辺（農地・住宅地）における捕獲

(2) 捕獲方法

- ・ 令和5(2023)年度の銃による捕獲割合は過去10年間で最も低い37%となったが、依然として捕獲方法としては最多となった(表4-2)。
- ・ 保全地区では、銃が約7割で、次に箱わな、くくりわなであった(表4-2)。
- ・ 中間地区では銃が約5割で、次に箱わな、くくりわなであった。
- ・ 排除地区ではそのほか4割、次に箱わな、銃であった。
- ・ 排除地区でその他の割合が高かったのは、大型のおりわなや大型の囲いわなによる捕獲が多いためであった。
- ・ 県北西部の市町で銃の割合が高く、県南部および県北部ではわなの割合が高い傾向があった。

表4-2 捕獲方法(令和5(2023)年度)

保全地区						頭(%)
市町名	銃	箱わな	くくりわな	その他	不明	計
足利市						
栃木市						
佐野市						
鹿沼市						
日光市	49 (88)		7 (13)			56
那須塩原市	2 (18)	4 (36)	3 (27)	2 (18)		11
那須町	1 (8)	11 (92)				12
計	52 (66)	15 (19)	10 (13)	2 (3)		79
中間地区						
市町名	銃	箱わな	くくりわな	その他	不明	計
足利市						
栃木市						
佐野市		6 (55)		5 (45)		11
鹿沼市	4 (40)	1 (10)	4 (40)	1 (10)		10
日光市	88 (59)	31 (21)	26 (17)	4 (3)		149
那須塩原市	9 (30)	19 (63)	1 (3)	1 (3)		30
那須町						
計	101 (51)	57 (29)	31 (16)	11 (6)		200

排 除 地 区						
市町名	銃	箱わな	くくりわな	その他	不明	計
足利市			1 (100)			1
栃木市	3 (100)					3
佐野市		5 (15)	4 (12)	25 (74)		34
鹿沼市	7 (33)		7 (33)	7 (33)		21
日光市	15 (71)	4 (19)	1 (5)	1 (5)		21
那須塩原市	10 (9)	46 (40)	13 (11)	47 (41)		116
那須町	1 (20)	3 (60)	1 (20)			5
計	36 (18)	58 (29)	27 (13)	80 (40)	0 0	201

参考

	銃	箱わな	くくりわな	その他	不明	計
H19年度計	338 (79)	65 (15)	7 (2)	5 (1)	13 (3)	428
20年度計	461 (71)	127 (19)	12 (2)	47 (7)	6 (1)	653
21年度計	424 (72)	93 (16)	16 (3)	44 (7)	13 (2)	590
22年度計	515 (70)	149 (20)	13 (2)	47 (6)	13 (2)	737
23年度計	291 (66)	104 (23)	20 (5)	27 (6)	2 (0)	444
24年度計	433 (63)	203 (29)	7 (1)	10 (1)	37 (5)	690
25年度計	313 (64)	95 (20)	6 (1)	61 (13)	11 (2)	486
26年度計	670 (63)	199 (19)	52 (5)	70 (7)	79 (7)	1070
27年度計	265 (60)	83 (19)	36 (8)	54 (12)	2 (0)	440
28年度計	304 (52)	103 (18)	90 (15)	52 (9)	37 (6)	586
29年度計	215 (50)	75 (17)	62 (14)	12 (3)	66 (15)	430
30年度計	153 (41)	68 (18)	61 (16)	60 (16)	34 (9)	376
R1年度計	219 (44)	123 (25)	88 (18)	61 (12)	9 (2)	500
R2年度計	237 (38)	153 (24)	124 (20)	72 (12)	40 (6)	626
R3年度計	157 (52)	73 (24)	59 (20)	9 (3)	2 (1)	300
R4年度計	225 (46)	100 (21)	77 (16)	75 (15)	8 (2)	485
R5年度計	194 (37)	130 (24)	72 (14)	93 (18)	42 (8)	531

(3) 捕獲場所の環境と捕獲方法

- ・ 保全地区および中間地区で、山林内における銃による捕獲割合が高かった（表4-3）。
- ・ 箱わなによる捕獲は、中間地区および排除地区において農地、山林における割合が高かった。
- ・ くくりわなによる捕獲は、保全地区では山林、中間地区では山林、原野、排除地区では山林における割合が高かった。

表4-3 捕獲方法と捕獲場所の環境(令和5(2023)年度)

保 全 地 区						
猟具	山林	原野	農地	住宅地	その他・不明	計
銃	47 (90)		5 (10)			52
箱わな	3 (20)	1 (7)			11 (73)	15
くくりわな	10 (100)					10
その他・不明	2 (100)					2
計	62 (78)	1 (1)	5 (6)	0 0	11 (14)	79
中 間 地 区						
猟具	山林	原野	農地	住宅地	その他・不明	計
銃	77 (76)	6 (6)	12 (12)	4 (4)	2 (2)	101
箱わな	13 (23)	11 (19)	17 (30)	1 (2)	15 (26)	57
くくりわな	16 (52)	10 (32)	1 (3)	2 (6)	2 (6)	31
その他・不明	5 (45)		5 (45)		1 (9)	11
計	111 (56)	27 (14)	35 (18)	7 (4)	20 (10)	200
排 除 地 区						
猟具	山林	原野	農地	住宅地	その他・不明	計
銃	13 (36)	9 (25)	13 (36)		1 (3)	36
箱わな	17 (29)		16 (28)	5 (9)	20 (34)	58
くくりわな	17 (63)	4 (15)	6 (22)			27
その他・不明	15 (19)	1 (1)	63 (79)	1 (1)		80
計	62 (31)	14 (7)	98 (49)	6 (3)	21 (10)	201

5 群れの行動追跡

1 調査の目的

サルに発信器を装着し、群れの行動圏を把握するとともに、捕獲や追い払い等の対策に活用する。

2 調査方法

オトナメスを捕獲し、GPS発信機を装着した。使用した発信機は(株)フォレストシーが開発したものであり、4時間ごとに取得した位置情報を独自の通信規格であるGEO-WAVEにより、中継機や親機を介してクラウド上に蓄積するものである。得られたデータをGIS上で地図化した。

3 調査結果

- ・ 令和5(2023)年度は、鹿沼市西大芦地区において1頭に装着した(1月25日)。
- ・ 3月までの測位点をまとめると、大芦川沿いの集落付近や山林を中心に行動していた(図5-1)。

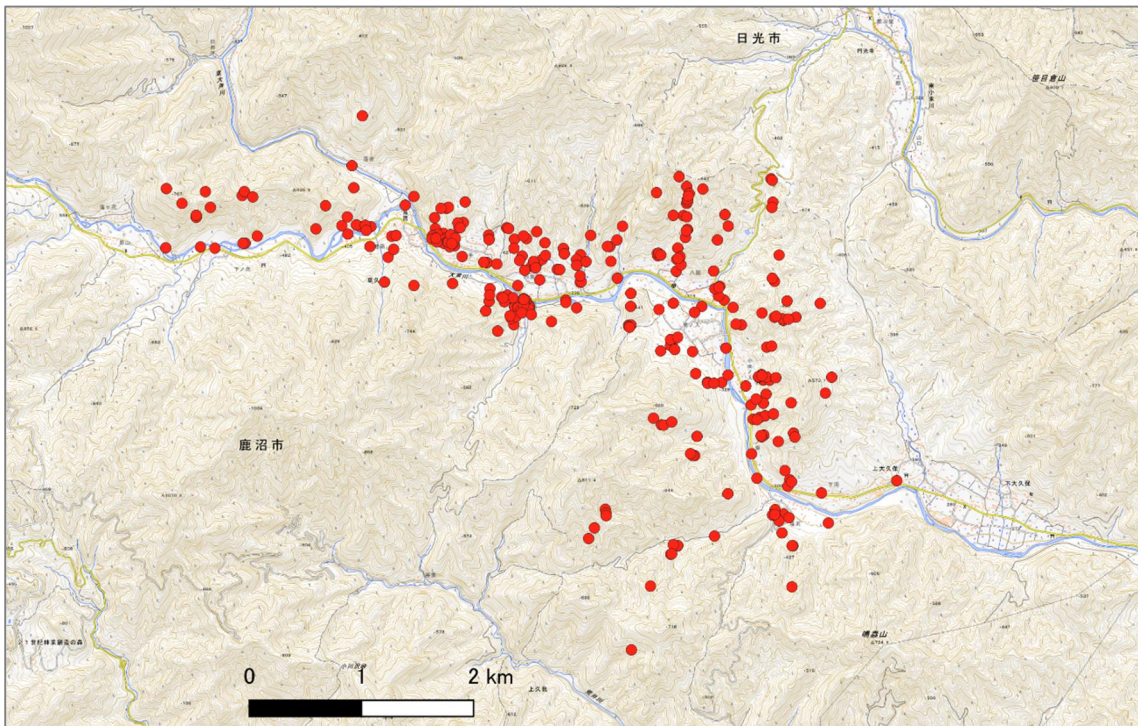


図5-1 西大芦群の行動圏(令和6(2024)年1月25日~3月31日)

6 農作物被害の発生状況

1 調査方法

野生鳥獣による農作物の被害状況調査要領（農林水産省生産局長通知）に基づき、市町村からの1年間の被害報告を獣種別、作物別に集計している。

2 被害発生状況

(1) 農作物別被害状況

サルによる農作物の被害金額は、平成20(2008)年度から増加傾向であったが、平成28(2016)年度をピークに減少傾向となり、令和5(2023)年度は前年度の約半数に減少した(表6-1)。

農作物別でみると稲や果樹への被害が多くなっている(図6-1)。

表6-1 サルによる農作物への被害金額の推移

(単位：百万円)

獣種	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
サル	32	32	35	24	19	20	19	15	12	5

<参考>

(単位：百万円)

区分	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
鳥類被害金額	82	85	81	73	47	62	49	40	53	39
獣類被害金額	271	287	302	263	235	221	211	138	146	141
合計※	353	372	383	336	282	283	260	178	199	180

※小数点以下四捨五入

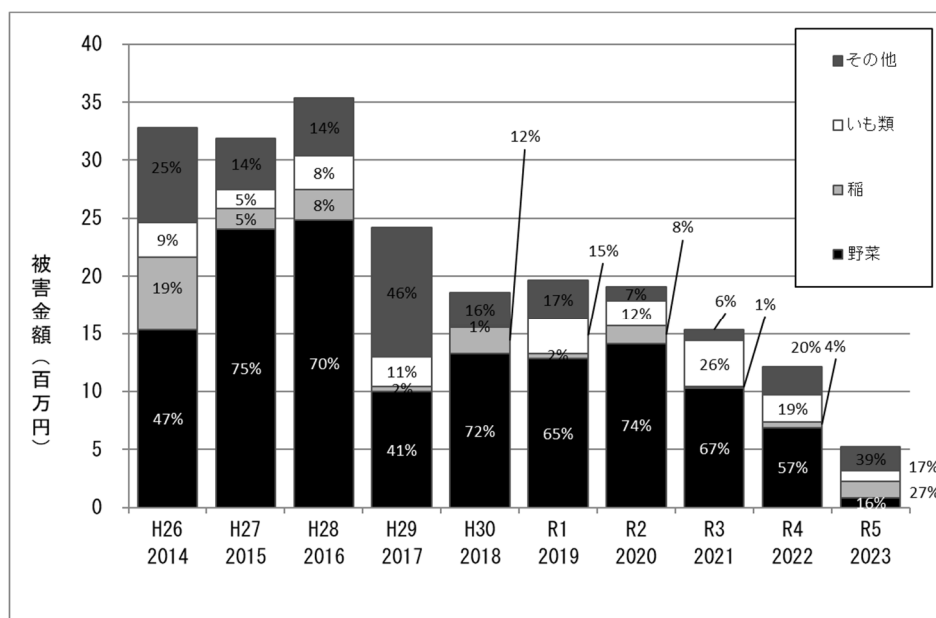


図6-1 サルによる農作物への被害金額の推移

7 農業集落アンケート

1 調査方法

集落単位での被害の程度（ほとんどない、軽微、大きい、深刻）や対策実施状況等を把握するためのアンケート調査を行った。対象は「世界農林業センサス」の農業集落を単位とすることを基本としたが、市町の実情により自治会長や農業推進委員などに依頼した場合は、得られた回答については農業集落を最小の単位として集計した。回答内容の対象期間は、令和5（2023）年4月から11月とした。

得られたデータは、空間統計処理を施すことにより被害分布図を作成するとともに、平成26（2014）年度に実施した調査との比較を行った。

2 結果

- ・ アンケートは3,541通を配布し、2,538通の回答を得た（回収率72%）。
- ・ 県北部の那須塩原市や、西部の日光市から鹿沼市、佐野市にかけての地域に、被害の大きい地域が分布していた（図7-1）。また、県東部においても、大田原市を中心に局所的に被害が発生していた。
- ・ 被害発生集落は被害が「ほとんどない」に関しては減少傾向にあったが、「軽微」以上の被害に関してはわずかな減少であった（図7-2。「被害なし」は除いて作図）。
- ・ 対策に取り組む集落はわずかに増加傾向で、被害が発生している集落のうち半数程度が柵の設置を中心に被害対策を行っていた（図7-3）。

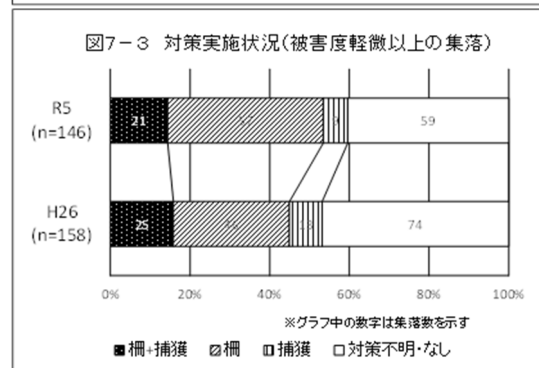
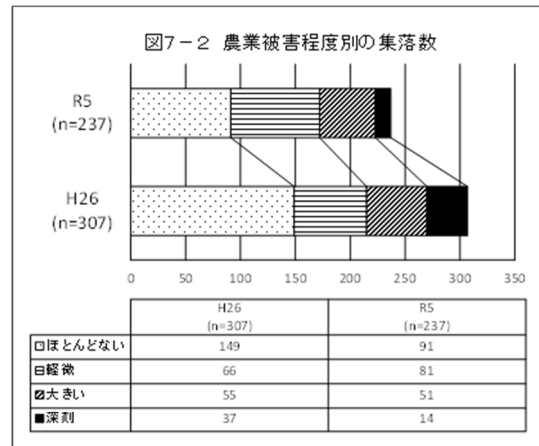
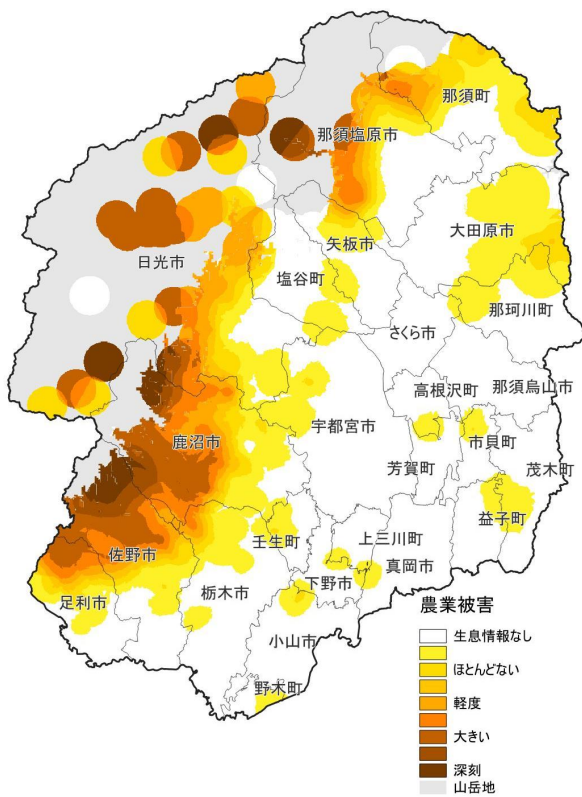


図7-1 サルによる農業被害の分布（R5）

8 被害対策実施状況

本県では、「栃木県ニホンザル管理計画」に基づき、人とサルとの共存を図ることを目的とし、ゾーニングによる各地区の特性に応じた保護管理や被害防止対策等を組み合わせた管理を進めているところである。

特に被害防止対策については、不要果樹の伐採や藪の刈り払い等の「環境整備」、柵の設置や追い払い等の「防護」を組み合わせて実施し、サルを寄せ付けない地域づくりに取り組んでおり、県では市町が実施する追い払いやパトロール等を支援している。

- 平成 30 (2018) 年度から、とちぎ獣害対策アドバイザー派遣事業※ 1 を活用し、サル対策の集落支援として県内各地で地域ぐるみの総合的な対策を推進 (表 8-1)
- 平成 30 (2018) 年度から、ICT 囲いわな (クラウドまるみえホカクン) を活用した効率的な捕獲を実施 (表 8-2)
- 令和元 (2019) 年度から、新規格の発信器を活用したサルの行動追跡や効果的な被害防除技術の実証を実施 (表 8-3)
- 令和 5 (2023) 年度から、農業被害防止対策サポーター事業※ 2 を活用したサル対策を実施 (表 8-4)

表8-1 とちぎ獣害対策アドバイザー派遣事業におけるサル対策を目的とした派遣集落

年度	集落名
H29	佐野市三好地区
H30	佐野市長谷場地区
	日光市和泉地区
R1	日光市野口地区
	矢板市第一農場地区
R2	那須塩原市上塩原地区
	鹿沼市西大芦地区
R4	鹿沼市上南摩地区
	那須塩原市宇都野地区
	那須塩原市上塩原地区
R5	足利市名草上地区
	足利市名草中地区
	栃木市星野地区
	那須塩原市宇都野地区
	那須塩原市上塩原地区

表8-2 県内サル用 ICT 大型 囲いわな導入実績

年度	市町名	地区名
H30	佐野市	作原
	鹿沼市	粕尾
R1	日光市	和泉
R2	日光市	野口

表8-3 発信器を活用した行動追跡・被害防除技術実証

年度	実証場所	内容
R3	日光市七里	発信器を活用したサルの行動追跡
R5	鹿沼市西大芦	発信器を活用したサルの行動追跡
R5	那須塩原市上塩原	複合柵を用いた被害防止

表8-4 農業被害防止対策サポーター事業における鳥獣管理士の派遣

年度	市町名	内容
R3	那須塩原市	野菜類におけるサル対策指導
R4	栃木市	作物におけるサル対策指導及び座学研修
	佐野市	果樹、露地野菜におけるサル対策指導
R5	那須塩原市	露地野菜におけるサル対策指導

- ※1 鳥獣管理士等を農林業被害対策に取り組む集落に派遣し、地域ぐるみの効果的かつ継続的な住民主体の取組を推進する事業
- ※2 農業者等に鳥獣管理士を派遣し、適切な鳥獣被害防止対策を早期に実施する事業

9 総合評価

1 捕獲数と捕獲の分布

捕獲数は年によって大きく変動しているが、前年度からは増加した。

捕獲の分布は県北部から県南西部にかけて広がり、主に中間地区及び排除地区で捕獲が行われている。

2 被害の発生状況

農作物被害は、被害が多かった地域での対策が進んだことで平成 28(2016)年度をピークに減少し、平成 25(2013)年度以降最も小さくなったが、引き続き対策を進めていくことが必要である。

3 被害対策

集落にある不要果樹の伐採や藪の刈り払い等の「環境整備」や柵の設置、追い払い等の「防護」を実施し、サルを集落に寄せ付けないことが重要である。

また、捕獲（個体群管理）に当たっては、群の中の捕獲しやすい個体を散発的に捕獲するのではなく、群の生息範囲や加害レベル等に応じて実施し、効果的に被害の軽減を図る必要がある。そのためには、まず、集落ごとの加害レベル、群れサイズの把握に努め、ゾーニングの地区に応じた対策を意識づけることが必要である。

栃木県ニホンザル管理計画（五期計画）の重点対策集落に設定された集落においては、ニホンザルによる加害レベルの低減を図るため、アドバイザー派遣事業等を活用した被害対策を継続していくことが重要である。

4 個体群管理の担い手

サルは社会性の高い動物であり、学習能力が高く、環境を立体的に使える生物学的特徴があるため、ニホンジカやイノシシ等の他の獣種とは異なる対策が必要である。

したがって、管理に当たっては鳥獣管理士等などの専門家を活用し、地域が主体となって集落の点検や対策の検討などの地域ぐるみの総合的な取組みを推進するとともに、地域住民等を対象とした研修会を開催し、知識や技術の普及を図ることが重要である。